ドクターに聞きました

「聞こえない」をほっとかない！
難聴で困っていることはありませんか？

「最近、聞き間違えが多い」「集まりでの会話が聞き取れない」「テレビの音量が大きくなった」「体温計の音が聞こえない」…このようなことはありませんか？当てはまる方は、聴力が落ちているかもしれません。年齢が上がることで生じる難聴は、徐々に進行するため気が付きにくいのです。

老人性難聴とは？

耳の老化によって本来の音が脳に正しく伝わらず、聞こえない状態です。老人性難聴は特に高い音から聞こえが悪くなる場合が多いのと認知機能の低下で、「音」としては聞こえているが、「言葉」としての聞き取りが難しくなっている場合もあります。そのため聞き間違えが増えます。

難聴は認知症、体力低下に関係あるの？

世界4大医学雑誌「ランセット」では、認知症の予防策として難聴の介入を上げています。また、難聴があると聞こえにくいことを知られたくないために人との接触を避け、体を動かす機会が減り、体力が落ちます。場合によっては周りの人に認知症と勘違いされることもあります。このように難聴は、体力の衰えや認知症に関わりを持っています。

治療方法は？

主な難聴原因の一つである「老化による難聴」は薬や手術では改善しません。しかし、補聴器を活用することで聞こえを改善することができます。そのためには、補聴器について正しく理解し、補聴器を適切に調節してもらい、脳のトレーニングをすることが重要です。そうしないと「補聴器はつけても聞こえない」とか「補聴器をつけたけどうるさいだけ」と感じてしまうかもしれません。

脳のトレーニングとは？

音は外耳、中耳を通って、蝸牛で電気信号に変換され、信号が脳に届いて、人間は初めて音を感じます。つまり、脳で音を聞いています。

加齢性難聴などによる蝸牛障害による難聴が起きた場合、音を電気信号に変えにくくなり、脳に届く電気信号が減ります。それが続くと聴覚野を含めた感覚路に変化が起こります。そこに目標とする音を一気に入れてしまうと難聴の脳は極めて不快に感じてしまい補聴器を長時間装用することが出来ません。

そこで、補聴器調整者は2～3カ月かけて補聴器から耳に入れる音を徐々に増やしていきます。また補聴器をつける人も、補聴器を初めてつけた時は少しにぎやかと感じますが、次第に脳が順応していきます。これが「脳のトレーニング」です。

「脳のトレーニング」で重要なポイントがあります。それは、できるだけ長く補聴器をつけることです。当院で補聴器を調整する場合は起床してから就寝まで10時間補聴器を装用するように指導しております。

補聴器の相談をするタイミングは？

聞こえに不安を感じた時です。補聴器は周りの雑音を消して声の聞こえをよくする機械です。自分の聞き取りの不安をなくす道具なので、きちんと正しくつけると、自分の聞く力をパワーアップさせます。

自分にあった補聴器を手に入れるには？

まずは耳鼻科に行って、難聴の原因と聞こえの機能のチェックをしてもらい、補聴器が役に立つか知りましょう。次に、適切に調整された補聴器を試聴し、聴覚リハビリをします。2～3カ月調整をしながらトレーニングをし、補聴器の効果を検査で確認して、補聴器を購入します。

病院を選ぶ目安としては、補聴器相談医がいる補聴器適合検査を行うことのできる病院がお勧めです。補聴器販売店を選ぶ目安は補聴器認定専門店であり、1～3か月試聴させてくれるところがお勧めです。設備などが担保されるので安心です。

難聴はほっておいてもよくなりません。難聴で少しでも不安のある方は、まず耳鼻科で耳の状態をチェックしてもらいましょう。そして適切な補聴器を装用し、脳のトレーニングを行って、聞こえを取り戻しましょう。

一枝クリニック院長
江島 正義先生
（耳鼻咽喉科担当）

日本耳鼻咽喉科学会認定耳鼻咽喉科専門医、日本耳鼻咽喉科学会認定補聴器相談医。補聴器適合判定医師研修会を修了し、難聴でお困りの方が「なくてはならない補聴器を手に入れて幸せになる」ために、補聴器診療をしています。

一枝クリニック
耳鼻咽喉科・小児科
戸畑区一枝 2-3-26
TEL 093-616-2812